

○議長（小林哲雄）

お諮りします。議事の都合上、本日の会議を延長することにご異議ございませんか。
（「異議なし」という者多数）

○議長（小林哲雄）

異議なしと認め、本日の会議を延長いたします。

日程第19 常任委員会所管事務調査の報告を行います。この件につきましては、平成27年2月13日付けで、総務経済常任委員会より開成町議会会議規則第75条に基づく所管事務調査に係る報告が提出されています。委員長に報告を求めます。

総務経済常任委員会鈴木庄市委員長。

○6番（鈴木庄市）

平成27年2月13日、開成町議会議長、小林哲雄様。総務経済常任委員会委員長、鈴木庄市。

総務経済常任委員会所管事務調査報告書。

本委員会の所管事務につき、調査した結果を次のとおり報告する。

- 1、調査の件名、「開成駅周辺の整備と今後の見通しについて」。
- 2、調査の経過。調査は4回行っております。記載のとおりです。
- 3、調査の目的。平成26年度一般会計当初予算において開成駅周辺再整備事業費、及び駅前通り線周辺地区土地区画整理事業費が計上されているところである。そのため、本町の主要な玄関口である開成駅の周辺での町の整備方針を確認するとともに、提言すべき事項等を検討するため、調査研究を行うこととした。

- 4、調査の結果。懸案事項等として、以下の2項目について街づくり推進課からの説明聴取を中心に調査を行った。

①開成駅周辺再整備事業について。

平成26年3月の足柄紫水大橋の開通により、今後開成駅東側への車両の乗入が多くなることが見込まれた中、現況の東口ロータリーは駅利用者送迎用車両の停車スペース等が未整備であり、朝夕は自動車・歩行者が混雑するなど、危険な状況になることが予想された。

このことから、当初、町は駅前広場に「歩行者用デッキの設置」を含む改修計画を策定するため、駅東口ロータリー改修設計業務委託として4,500万円の予算を計上していた。しかし、交通量調査を実施した結果、車両の乗入れが当初の想定のように増加しないこと、デッキ設置後の推定利用者がそれほど多く見込まれない等、費用対効果について総合的に判断し、デッキの構築は現時点では時期尚早と判断され、当面デッキ計画は見合わせ、入札執行残の整理を含め現在の現計予算は1,500万円となった。

ロータリーの改修は、車両の主交通経路や地元住民の意見を考慮して形状比較が行われ、最適な形状、課題等について検討が行われた。

駅利用者送迎用車両や大型緊急車両への配慮として、道路の拡幅を行い、また、南側集合住宅や東側複合施設に面している流入路を歩行者専用道路として確保することで調整しており、遅くとも2月中には警察協議及び地元自治会には3月中に説明会を行うと

の説明を受けた。

②駅前通り線周辺地区土地区画整理事業について。

都市計画道路「駅前通り線」のうち、未着手部分を含む6ヘクタールの地域の調査委託として397万5,000円を計上し、本地区のまちづくり基本構想を作成するとともに、その実現に向けて事業推進方策の検討がされている。

事業化を見きわめるための事業区域の検討が進められ、駅前通り線と沿道の整備を見据えた最小限の事業区域（約3ヘクタール）と、駅前通り線及び中家下島線の線形に合わせた事業区域（約6ヘクタール）、町道235号線までの事業区域（約9ヘクタール）が案として考えられていた。

現在、事業区域及び事業手法を比較し、最適な進め方について検討された結果として、沿道区画整理型街路事業（約3.1ヘクタール）による整備方針が示された。

5、まとめとして、駅東口ロータリー改修については、南側集合住宅や東側複合施設、駅のエレベーター・階段からの人の流れと利便性を考慮し、安全性の確保を最優先に進める必要がある。

また、駅前通り線周辺地区土地区画整理事業については、駅から南部地区土地区画整理事業地との早期連携と商業施設集積の促進、費用対効果等を勘案し、事業区域の設定及びその事業手法について慎重な検討を進めるべきである。

以上でございます。なお、最近の情報によりますと東口ロータリーの車両送迎用の停車スペースについては、道交法等の関係があって、それを設置することはできないというような報告がきております。

以上でございます。

○議長（小林哲雄）

以上で、日程第19 常任委員会所管事務調査の報告を終了いたします。